令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育総合推進地域事業＞

都道府県・指定都市名	神奈川県	地域名	三浦市　三崎地区・初声地区

人権課題	子供・同和問題・外国人・ハンセン病患者等・性的指向、性自認

目標・人権教育のねらい

・人権教育の授業実践を通して、違いを受け入れたり様々な生き方があることを知る。
・児童・生徒だけではなく、教職員自身も人権課題を学びながら、授業を通して一緒に学んでいく。
・全ての児童・生徒が安心して学校生活を送ることができるようにする。

各組織の動き・役割等

神奈川県教育委員会　→　指導・助言

人権教育総合推進会議

人権課題について研修を行い、人権教育担当教員の知識を深めた。人権教育担当としての役割を確認した。各校の実践を共有し、実践を市内へ広げた。

三浦市文化スポーツ課　→　体験学習での協力

三浦市立三崎小学校：教育課程特例校として取り組む「グローバル表現科」で外国の方々と交流した

三浦市立初声小学校：人権コーナーを設置し、違いを理解することのできる環境を整えた

三浦市立岬陽小学校：外部講師を招聘し、下学年・上学年に分かれ全校で「性の多様性」について学んだ

三浦市立三崎中学校：外部講師を招聘して「情報モラル」の授業を行い、「自分と他の人の大切さ」について学んだ

三浦市立名向小：道徳の授業を通して人権教育の授業実践を行った

三浦市立初声中学校：生徒会を中心に「人権学習活動」に取り組んだ

校種間連携の概要

・人権教育総合推進会議において、各校の実践を共有し、各校の実践を他校へ広げることができた。
・研究授業の検討において、小・中学校の学び方について情報交換することができた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育総合推進地域事業＞

地域・関係機関との連携の概要	・福祉体験等は、三浦市社会福祉協議会やスポーツ推進委員の協力を得ながら体験的に学ぶことができた。 ・地域の方の体験をもとにした講話により、興味関心を高めながら意欲的に学ぶことができた。
事業成果	・知識的側面：資料の活用、講師招聘により人権課題を正しく理解することができた。 ハンセン病患者等の人権課題について、「正確な知識がないと簡単に差別してしまう」「出来事を知るためには、人の話をよく聞く」「差別をされる人の気持ちを考えて行動する」など、各自が深く考える姿があり、ハンセン病患者等の人権への理解が深まった。 「問題の解決に向けて、自分で考え、進んで取り組むことができましたか。」 小学校は昨年度より１%向上し８８%、中学校は昨年度より２%向上し８６% 令和７年度三浦市学校教育全体構想に係る児童生徒アンケートより ・価値的・態度的側面：当事者等の講話を通して自分自身の考えを再構築し、相手の気持ちを考えた行動につなげることができた。 「自分には、よいところがあると思いますか。」 小学校は昨年度と変わらず８９%、中学校は５%向上し８６% 令和７年度三浦市学校教育全体構想に係る児童生徒アンケートより ・技能的側面：課題意識を持ちながら話し合いや体験活動を行うことで、自分の思いに気付いたり相手の気持ちを想像したりする力を身に付けることができた。また、自らの考えを整理するために、ワークシートに自分の考えを書くことで他者と考えを共有し、相手を受容する行動がみられるようになってきた。 「友達のいいところを見つけたり、認めたりすることができていますか。」 小学校は昨年度より１%向上し９４%、中学校は昨年度と変わらず９８% 令和７年度三浦市学校教育全体構想に係る児童生徒アンケートより